

公共施設の利用とコミュニティの構造

倉 田 和 四 生

はじめに

- 〔1〕 研究枠組
 - 〔2〕 公共施設の利用と人口特性
 - 〔3〕 公共施設の利用と住民の態度
 - 〔4〕 公共施設の利用とコミュニティの特質
 - 〔5〕 公共施設利用の規定要因は何か
- む す び

はじめに

ペリーの近隣住区計画には、三つのねらいがあるといわれている。一つは、自動車の危険から人間を守るため、居住地の交通システムを工夫すること。二つ目は、住区を設定しその中に施設を適切に整備することによって、住民の日常的な生活の利便性をはかること。三つ目は、住区内に公共施設を整備しその利用をはかることによって、住民の交流を高め、コミュニティ意識を育てようとするものである。

神戸市においては、昭和40年に総合計画の中で、居住地整備の手法として「近隣住区計画」を採用入れたが、その後いくつかの調査がなされてきた。しかしその多くは、住民の日常生活の利便性を追求する都市計画的な単位として考えられて来た。すなわち、近隣住区が論ぜられていても、二つ目の利便性をねらっていたことになる。

しかし、近隣住区の真のねらいは、近隣住区の社会的な交流を高め統一性をはかることにあるから、近隣住区関連調査は当然のことながら三つ目のねらいに向わなければならないものである。

これまで数年にわたってコミュニティ・カルテを行政区別（神戸市）に作成してきたが、その際、1部の社会経済的要因の人口分析および施設整備の現況調査と、第2部の地域住民組織の研究は別々になされ、両者は結びつけられていなかった。

しかし、現実の地域生活においては1部の人口と2部の住民組織は結びついているものであるか

ら、人口の社会経済的データと地域の住民組織の研究は適切に関連づけられなければならない。このような考えに基づいて、ここでは両者の研究を結合させるようなテーマを選ぶことにした。

ところで、ペリーの近隣住区論に示されているように、現代の都市生活においては、地域の中核となり得るのは「公共施設」である。そこで「公共施設の利用」という問題をとりあげ、これを核としながら、人口の特性と組織的特性を関連づけて検討してみよう。

〔1〕 研究枠組

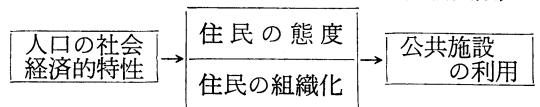
（1）作業仮説

この調査の目的は、① 公共施設はどのように使われているか、② 地域住民組織との関係はどのようなものか、③ 公共施設の需要を規定する要因は何か、を明らかにすることであるが、そのために次のような作業仮説を立てた。

- ① 公共施設の利用に対する需要は、人口の社会—経済的特性によって規定される。
- ② 公共施設の利用に対する需要は、住民の考え方や態度によっても規定される。
- ③ 公共施設の利用に対する需要は、住民間の組織的活動の程度によって規定される。

この仮説を次の図式のように構成した。

（独立変数） （媒介変数） （従属変数）



質問票は上の図式にしたがって、① 人口特性、② 四つの施設の利用、③ 住民の態度、④ 住民の組織的活動、の順で構成された。

（2）調査方法

1）三つの調査

この調査目的を達成するため三つの調査をおこなった。

- ① 一般住民を対象にした公共施設利用のアンケート調査。
- ② 公共施設の資料を用いて、その利用実態を調査した（ヒアリング）。
- ③ 住民組織の実態および組織と公共施設との関連を調査した（ヒアリング）。

2) 調査の時期

- ① 一般住民のアンケート調査は昭和51年7月（魚崎地区、湊山地区）と同年10月（入江地区、多聞台地区）の二回にわたって実施した。
- ② 公共施設のヒアリングは昭和51年11月から昭和52年6月にかけておこなった。
- ③ 住民組織のヒアリングは昭和51年11月から昭和52年6月にかけて実施した。

3) 調査対象の公共施設 ① 公園 ② 児童館 ③ 老人いこいの家 ④ 集会所

4) 調査対象地区の選定

調査対象地区は三つの基準によって選定された。すなわち、① 住宅の建設時期による区分、② 建物用途混合率による区分、③ 施設の設置状況の三基準である。

調査対象地区の類型

住宅の古さ 建物の用途	(X)	(Y)	(Z)
	S. 26年以前 50%以上	S. 26年以降 50%以上	S. 36年以降 90%以上
(J) 住宅地	(湊山地区) 児童館 老人 いこいの家		(多聞台地区) 児童館 老人 いこいの家
(H) 商業・住宅 混合地		(入江地区) 老人 いこいの家	
(I) 工業・住宅 混合地		(魚崎地区) 児童館 老人 いこいの家	

- ① 住宅の建設時期による区分
(X)：昭和26年以前に建設された住宅の占める割合が50%以上の地区。
(Y)：昭和26年以降に建設された住宅の占める割合が50%以上の地区。
(Z)：昭和36年以降に建設された住宅が90%以上の地区（住宅団地）。
- ② 建物用途混合率による区分
(J)：住宅地。

- (H)：商業・住宅混合地。
- (I)：工業・住宅混合地。

③ 施設の設置状況

「児童館」と「いこいの家」が両方とも存在している地区。

5) 対象者の選定

調査対象単位は世帯とし、原則として調査地区の世帯総数の5%を抽出することとした。しかしながら、世帯総数の多い地区と少ない地区では、調査人員などの関係で、若干の差異がある。

調査対象地区の範囲は「小学校区」を基本とするが、既存の統計データをできるだけ有効に利用するため、実際には小学校区に重なり合う統計区を基礎として設定した。しかし、小学校区と統計区がまったく一致する地区もあれば、若干相異なる地区もある。

選定方法

被調査世帯の選定はメッシュ法を用いた。すなわち一定の間隔でもって住宅地図上に縦横の線を引き、その交点にあたった家を調査世帯とした。なお、一戸の家に二世帯以上ある場合は、その中から一世帯のみを抽出する。また世帯の密度を考慮にいれ対象者数を調整した。

- (魚崎地区) 魚崎小学校区（統計区101, 102, 103） 6,081世帯の約5%, 300世帯を抽出
- (湊山地区) 湊山小学校区（統計区516） 2,900世帯の約5%, 150世帯を抽出
- (入江地区) 入江小学校区（統計区524, 525） 5,433世帯の約4.2%, 230世帯を抽出
- (多聞台地区) 多聞台小学校区（統計区812） 2,101世帯の約6%, 130世帯を抽出（共同住宅92, 独立住宅38）

対象世帯総数 810世帯

(3) 調査地区の概況と公共施設の整備状況

1) 魚崎地区

① 魚崎地区の概況

魚崎地区は神戸市東灘区中央南部に位置し、古くは横屋村と魚崎村からなっていた。この地区は灘五郷の中心として知られている。明治38年、阪神電車が開通、海岸部の旧集落の間が宅地化し、大阪と神戸の郊外住宅地として発展していった。

昭和20年の神戸大空襲で横屋周辺は羅災はまねがれたものの、臨海部は灰燼に帰した。戦災復興

にともなう区画整理は国道43号線を中心に計画され、現在は整然とした市街地が形成されている。

魚崎はかつて美しい白砂と青松を誇る海浜をもっていたが、戦後の経済成長にともなう産業用地の需要が増大したため、その海岸線を埋立て、東部第3工区として、金属加工業、セメント、食糧品製造、電力会社などが立地している。また埋立地には東部下水処理工場も建設されている。さらに六甲アイランドの埋立が始まり、将来の神戸港の機能拡大にそなえている。

② 公共施設の設置状況と利用

魚崎地区には市立の「児童館」、財産区有の「老人いこいの家」、「公園」9カ所および財産区有の集会所（魚崎会館、横屋会館、西町会館）の外、東灘文化センターが整備されており、極めて恵まれているといえよう。

またその利用もきわめて活発で、児童館は年間37,037人、老人いこいの家 5,402人、三會館合計1,826人、東灘文化センター（51年度）101,027人（一日平均386人）の利用者があった。

2）湊山地区

① 地区の概況

湊山地区は神戸市兵庫区の北部に位置し、湊川と烏原川の合流点から山麓にかけて広がる地区である。戦災からまぬがれたため、戦後間もなく急激な人口増加がみられた。湊川や平野の商店街にも近く、比較的、下町的な雰囲気のある住宅地となっている。近年は山麓まで住宅が開発され、さらに斜面にも開発がすすみ、住宅が密集している。また地区の南を東西に山麓線が通っている。

② 施設の設置状況とその利用

湊山地区には公園が一つと児童館一つ設けられているが、老人いこいの家は民間のものであり、しかもかなり不便なところにあるため老人の利用者は少ない。集会所がないため、老人いこいの家を集会所に使用している。この地区には市立の老人いこいの家と、集会所を設置する必要がある。

利用状況としては、児童館が28,576人（1日平均97.9人）、老人いこいの家は4,672人の人が利用している。ただし老人いこいの家の数字は、集会所に利用した人数で、地区外の人利用が多い。

3）入江地区

① 地区の概況

入江地区は神戸市兵庫区の南部にあって生田区と接している。古くから兵庫の港として栄えたところで、西出町・東出町には戦前の面影が残っている。

西出町・東出町以外は戦争によって破壊されたので、戦後、戦災復興の区画整理によって道路が整備された。ここは兵庫港の流通業務地区の役割をになっている。

② 施設の設置状況とその利用

入江地区には公園が6カ所と本町公園内に市立の「老人いこいの家」があるだけで、集会所も児童館も設置されていない。児童館と集会所を設置する必要がある。

利用状況についてみると、小学校の児童は、東川崎児童館に通っている。老人いこいの家も利用はあまり活発ではない。集会所は各自治会で工夫して小さな集会所を建設しているところもあるが、全体としてみればないところが多い。

4）多聞台地区

① 地区の概況

多聞台地区は昭和37年から39年にかけて神戸市の都市計画事業として開発された住宅団地である。計画戸数は2,000戸、計画人口は7,000人であった。神戸市としては、比較的、初期の住宅開発で、1小学校を成立させる規模のものとしては初めて近隣住区を具現している。

開発されるまで多聞台地区は山林であったが、現在では明舞団地や新多聞団地と連担し、新しい市街地景観をつくり出している。

② 施設の設置状況とその利用

多聞台地区には、児童館（1）、公園（4カ所）、老人いこいの家（1）、集会所（2）などの施設がすべて整備されている。計画的に開発された住宅地であるところから施設には恵まれている。

利用状況についてみると、児童館26,634人（1日平均90.9人）、他の施設は利用者の人数は不明であるが、きわめて活発に利用している。

〔2〕 公共施設の利用と人口特性

仮説で述べたように、公共施設の利用は、人口の社会—経済的特性によって規定されると考えられるので、これを調査データにもとずいて検討してみよう。

まず公共施設の利用と人口の社会一経済的要因との関連を考察する。

そこで具体的には、四つの公共施設毎に人口特性とのクロス分析をおこなってみよう。

(1) 公園の利用

① 家族構成（世代別）

表 2-1

地 区		魚 崎	湊 山	入 江	多聞台	全 体
Q1-1 家 族 構 成	1. 単(65以上)	0.0	1.5	0.17	0.0	0.59
	2. 単(65以下)	0.0	0.0	0.4	0.0	0.21
	3. 夫婦(65以上)	0.62	2.38	0.83	3.33	1.24
	4. 夫婦(65以下)	0.81	0.5	0.91	0.0	0.67
	5. 夫婦(65以上)+子供(中以下有)	2.5	0.0	6.0	0.0	3.67
	6. 夫婦(")+子供(無)	1.0	0.23	0.17	1.5	0.63
	7. 夫婦(65以下)+子供(有)	2.52	1.51	2.92	3.42	2.70
	8. 夫婦(")+子供(無)	0.53	0.36	0.25	0.31	0.39
	9. 夫婦(65以上)+子供夫婦+孫(有)	2.47	1.94	3.0	2.6	2.46
	10. 夫婦(")+子供夫婦+孫(無)	0.5	0.1	0.0	1.0	0.38
	11. 夫婦(65以下)+子供夫婦+孫(有)	2.2	0.75	3.57	3.67	1.98
	12. 夫婦(")+子供夫婦+孫(無)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13. そ の 他	0.0	0.0	1.36	2.0	1.44

多い。また、老人のいる家族も利用率が高い。

表 2-2

年 令		学 歴	一 世 代	二 世 代	三 世 代
65才以上	子供有			⑤ 3.67	⑨ 2.46
	" 無	① 0.59 ⑧ 1.24		⑥ 0.63	⑩ 0.38
65才以下	" 有			⑦ 2.70	⑪ 1.98
	" 無	② 0.21 ④ 0.67		⑧ 0.39	⑫ 0

③ 世帯主の年令

公園の利用と世帯主の年令の関係についてみると、25～44才までの青壮年令の家族に多くみられる。

表 2-3

年 令		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
Q1-3 年 令	1. ～25才	0.5	4.0	2.0	0.0	1.5
	2. 25～34	2.56	0.77	3.48	3.62	2.9
	3. 35～44	2.46	1.62	2.84	3.06	2.7
	4. 45～54	1.13	0.35	0.75	0.72	0.8
	5. 55～64	0.58	0.47	0.76	0.21	0.6
	6. 65才～	0.84	1.67	0.86	1.67	1.1

④ 学歴

公園の利用は学歴とはあまり関係はみられない。

公園の利用を家族構成の世代別にみると、二世
代家族が他の一世代家族や三世代家族よりも公園
の利用率が高い。

② 子供または老人の有無

公園の利用と子供の有無の関係をみると、子供
のある方が無い家族よりも、公園の利用が非常に

表 2-4

学 歴		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
Q1-4 学 歴	1. 学歴なし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2. 小・中学校	1.30	1.33	0.89	3.16	1.4
	3. 高校	1.55	0.93	2.0	2.28	1.7
	4. 大学	1.46	0.85	1.84	2.64	1.7

⑤ 職業

公園の利用と職業との関係についてみると「事
務」と「運輸・保安サービス」などに多い。地区
別にみると、魚崎では「技能・単純労務」、湊山
では「販売」、入江では「サービス」、多聞台では
「販売」にも多い。

表 2-5

職 業		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
Q 2 職 業	1. 専門技術職	1.07	0.83	0.81	2.5	1.32
	2. 管理職	1.57	1.0	1.04	1.72	1.41
	3. 事 務	2.04	0.86	2.04	2.67	1.97
	4. 販 売	1.26	1.48	1.94	2.68	1.73
	5. 運輸・通信	1.58	0.39	0.7	5.5	2.05
	6. 技能工・単純作業	1.72	0.79	1.96	1.97	1.67
	7. サービス・保安	1.56	0.67	2.18	2.0	1.86
	8. 無 職	0.95	1.46	0.25	1.67	0.98
	9. その他	6.0	0.0	0.0	0.0	1.5

⑥ 自営か給与生活者か
公園の利用者はいくらか給与生活者に多い。

営の借家が高い。地区別にみると、公営借家のない湊山と入江では社宅や民営借家が高くなっている。

表 2-6		地 区					
仕事の形態		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体	
Q 3	1. 自営	0.72	0.9	1.64	6.0	1.30	
	2. " (区内)	1.13	1.36	1.04	0.0	1.14	
	3. " (市内)	0.56	0.79	1.5	2.44	1.22	
	4. " (市外)	1.17	0.0	1.25	0.75	1.13	
	5. 給与生活	0.13	0.25	0.63	0.0	0.43	
	6. " (区内)	2.36	0.91	1.67	0.0	1.57	
	7. " (市内)	1.96	0.83	1.45	2.70	1.80	
	8. " (市外)	1.68	1.26	3.76	2.62	2.08	

表 2-9		地 区					
家 屋		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体	
Q 6	1. 持ち家	1.26	0.89	1.44	1.29	1.2	
	2. 借屋(民)	1.92	1.31	1.79	0.17	1.7	
	3. 借屋(公)	2.44	0.0	0.0	3.21	3.1	
	4. 社宅	1.73	1.25	1.94	2.76	2.1	
	5. その他	1.33	0.5	1.0	0.0	1.0	

⑦ 年収
公園の利用と年収の関係についてみると、120万～300万までの中層の家族に多い。

(2) 児童館の利用
① 家族構成(世代別)
児童館の利用を家族構成の世代別にみると、二世代家族がやや多くなっている。

表 2-7		地 区					
年 令		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体	
Q 4	1. ~90万	0.4	1.0	1.83	0.0	1.13	
	2. 90~120	2.0	1.4	1.0	0.0	1.55	
	3. 120~180	2.39	1.05	1.58	3.05	1.93	
	4. 180~240	2.01	1.30	1.93	2.72	2.01	
	5. 240~300	1.82	0.96	1.96	3.48	2.09	
	6. 300~360	1.41	0.89	1.96	1.8	1.52	
	7. 360~420	1.43	1.2	1.46	2.04	1.50	
	8. 420~480	1.17	0.30	1.81	2.5	1.32	
	9. 480万~	0.92	1.02	0.70	1.33	0.91	

表 2-10		地 区					
家族構成		魚崎	湊山	多聞台	全体		
Q 1-1	1. 単(65以上)	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2. 単(65以下)	0.0	0.0	0.0	0.0		
	3. 夫婦(65以上)	0.0	0.0	0.0	0.0		
	4. 夫婦(65以下)	0.0	0.0	0.0	0.0		
	5. 65以上+中学以下有	1.0	0.0	0.0	0.67		
	6. 2 " +	無	0.07	0.0	0.0		
	7. 世代65以下+	有	0.61	0.94	0.89		
	8. " +	無	0.03	0.08	0.03		
	9. 65以上+	有	0.86	0.44	1.3		
	10. 3 " +	無	0.0	0.0	0.33		
	11. 世代65以下+	有	0.1	0.0	0.17		
	12. " +	無	0.0	0.0	0.0		
	13. その他	0.0	0.0	0.0	0.07		

⑧ 来住時期
公園の利用と来住時期の関係についてみると、昭和40年以降に来住した新しい人の利用率が高い。地区別にみると、魚崎と湊山では古い人も高い利用がみられる。

② 子供または老人の有無
児童館の利用は子供のいる家族の方がはるかによく利用している。

表 2-8		地 区					
来住時期		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体	
Q 5	1. 明治	2.4	1.5	1.0	0.0	1.67	
	2. 大正	1.39	0.25	0.64	0.0	0.95	
	3. 昭1~19年	1.15	0.73	1.43	0.0	1.17	
	4. 20~29	0.97	1.06	1.12	0.0	1.04	
	5. 30~34	1.04	1.17	0.75	0.0	0.94	
	6. 35~39	1.21	0.64	2.11	1.0	1.39	
	7. 40~44	1.72	0.77	2.70	2.27	2.02	
	8. 45年~	2.11	1.34	1.94	2.71	2.14	

表 2-11		世 代			
年令	子供	一世代	二世代	三世代	
65才以上	子供有		⑤ 0.67	⑨ 0.61	
	" 無	① 0.0 ⑧ 0.0	⑥ 0.03	⑩ 0.06	
65才以下	" 有		⑦ 0.60	⑪ 0.07	
	" 無	② 0.0 ④ 0.0	⑧ 0.03	⑫ 0.0	

⑨ 家の所有形態
公園の利用と家の所有形態についてみると、公

③ 世帯主の年令
児童館の利用と世帯主の年令についてみると、35才～44才の壮年層に多い。

表 2-12

地 区		魚崎	湊山	多聞台	全体
年 令					
Q1-3 年 令	1. ~25才	0.0	1.0	0.0	0.22
	2. 25~34	0.42	0.14	0.26	0.26
	3. 35~44	0.88	1.04	1.49	0.85
	4. 45~54	0.1	0.05	0.06	0.05
	5. 55~64	0.03	0.15	0.0	0.04
	6. 6才~	0.15	0.11	0.0	0.08

④ 学歴

児童館の利用は中学歴の世帯が最も多く、低学歴では低い。

表 2-13

地 区		魚崎	湊山	多聞台	全体
学 歴					
Q1-4 学 歴	1. 学歴なし	0.0	0.0	0.0	0.0
	2. 小・中学校	0.07	0.49	0.7	0.18
	3. 高校	0.47	0.51	0.87	0.42
	4. 大学	0.31	0.18	0.33	0.23

⑤ 職業

児童館の利用を職業別にみると「運輸・通信・単純労務」が最も多く、「管理」がこれに次いでいる。また地区別にみると、湊山と多聞台では保安サービスも多い。

表 2-14

地 区		魚崎	湊山	多聞台	全体
職 業					
Q2 職 業	1. 専門	0.28	0.25	0.53	0.29
	2. 管理	0.48	0.23	0.75	0.41
	3. 事務	0.23	0.43	0.14	0.18
	4. 販売	0.18	0.43	0.82	0.20
	5. 運輸	0.27	1.22	1.4	0.72
	6. 技能・単純労務	0.59	0.5	0.93	0.47
	7. サービス	0.14	1.0	1.25	0.32
	8. 無職	0.04	0.12	0.0	0.05
	9. その他	0.0	0.0	0.0	0.0

⑥ 自営か給与生活か

表 2-15

地 区		魚崎	湊山	多聞台	全体
仕事の形態					
Q3 仕 事 の 形 態	1. 自営	0.35	0.22	2.0	0.18
	2. “ (区内)	0.6	0.72	0.0	0.37
	3. “ (市内)	0.17	0.43	1.18	0.30
	4. “ (市外)	0.21	0.0	0.5	0.20
	5. 給与生活	0.0	0.25	0.0	0.03
	6. “ (区内)	0.5	1.0	0.0	0.47
	7. “ (市内)	0.35	0.35	0.71	0.37
	8. “ (市外)	0.38	0.42	0.41	0.36

児童館の利用はあまり大きな差はない。

⑦ 年収

児童館の利用と年収の関係についてみると年収240~420万までの「中の上」の層に多い。

表 2-16

地 区		魚崎	湊山	多聞台	全体
年 収					
年 収	1. ~ 90万	0.0	0.0	0.0	0.0
	2. 90~120	0.22	0.25	0.0	0.18
	3. 120~180	0.13	0.6	0.55	0.26
	4. 180~240	0.29	0.23	0.16	0.17
	5. 240~300	0.51	0.63	0.98	0.49
	6. 300~360	0.38	0.56	0.71	0.40
	7. 360~420	0.56	0.12	1.38	0.50
	8. 420~480	0.40	0.0	0.0	0.23
	9. 480万~	0.21	0.34	0.55	0.20

⑧ 来住時期

児童館の利用と来住時期の関係についてみると、昭和35年以降の、比較的、新しい人に多い。

表 2-17

地 区		魚崎	湊山	多聞台	全体
来住時期					
来 住 時 期	1. 明治	0.2	0.0	0.0	0.14
	2. 大正	0.23	0.0	0.0	0.11
	3. 昭和1~19	0.15	0.1	0.0	0.15
	4. 20~29	0.26	0.13	0.0	0.13
	5. 30~34	0.33	0.43	0.0	0.20
	6. 35~39	0.88	1.33	0.0	0.61
	7. 40~44	0.58	0.52	0.67	0.48
	8. 45年~	0.29	0.65	0.61	0.38

⑨ 家の所有形態

児童館の利用と家の所有形態についてみると、「公営の借屋」が最も多く、これについて「社宅」となっている。地区別にみると魚崎と湊山では「社宅」の利用が多い。

表 2-18

地 区		魚 崎	湊 山	多聞台	全 体
家 屋					
1. 持ち家		0.31	0.30	0.17	0.21
2. 借 屋(民)		0.32	0.50	0.25	0.24
3. 借 屋(公)		0.11	0.0	1.02	0.90
4. 社 宅		0.47	1.0	0.29	0.40
5. その他		1.0	1.0	0.0	0.83

(3) 老人いこいの家の利用

① 家族構成(世代別)

老人いこいの家の利用を家族構成の世代別にみると、三世代で65才以上がいくらか多くなっている

る。

ると、あまりはっきりした差はない。

表 2-19

地 区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1.	単(65以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2.	1世代 単(65以下)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3.	65以上	0.0	0.44	0.04	0.5	0.14
4.	65以下	0.29	0.06	0.0	0.0	0.12
5.	65以上+中以下有	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6.	2世代 " + 無	0.36	0.05	0.12	0.5	0.23
7.	65以下+ 有	0.0	0.03	0.0	0.01	0.01
8.	" + 無	0.03	0.04	0.0	0.06	0.03
9.	65以上+ 有	0.05	0.16	0.64	1.90	0.35
10.	3世代 " + 無	0.06	0.0	0.09	1.08	0.22
11.	65以下+ 有	0.0	0.25	0.0	0.5	0.08
12.	" + 無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13.	その他	0.0	0.0	0.04	0.0	0.03

② 子供または老人の有無

老人いこいの家の利用は、老人（65才以上）のいる方が多くなっている。

表 2-20

年令	世代 子供	一世代	二世代	三世代
65才以上	子供有		⑤ 0.0	⑨ 0.35
	" 無	① 0.0 ③ 0.14	⑥ 0.23	⑩ 0.22
65才以下	" 有		⑦ 0.01	⑪ 0.08
	" 無	② 0.0 ④ 0.12	⑧ 0.03	⑫ 0.0

③ 世帯主の年令

老人いこいの家の利用と世帯主の年令の関係についてみると、65才以上が最も多い。しかし地区別にみると、魚崎では45～54才、入江では25～34才、多聞台では35～44才が多い。

表 2-21

年令	地 区	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1.	～25才	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2.	25～34	0.0	0.12	0.24	0.03	0.07
3.	35～44	0.01	0.04	0.0	0.42	0.09
4.	45～54	0.21	0.04	0.0	0.11	0.08
5.	55～64	0.02	0.05	0.03	0.0	0.03
6.	65才～	0.03	0.20	0.13	0.42	0.12

④ 学歴

老人いこいの家の利用と学歴の関係についてみ

表 2-22

学 歴	地 区	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1.	学歴なし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2.	小・中学校	0.13	0.11	0.02	0.06	0.08
3.	高校	0.06	0.06	0.10	0.23	0.10
4.	大学	0.03	0.08	0.03	0.14	0.06

⑤ 職業

老人いこいの家の利用と職業の関係についてみると、「運輸・通信」が多い。地区別にみると湊山では「販売」、入江では「技能・単純」、多聞台では「専門・技術」に多い。

表 2-23

職 業	地 区	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1.	専門	0.03	0.0	0.06	0.36	0.10
2.	管理	0.11	0.06	0.05	0.14	0.10
3.	事務	0.01	0.02	0.0	0.30	0.07
4.	販売	0.04	0.24	0.05	0.0	0.08
5.	運輸	0.54	0.17	0.0	0.0	0.20
6.	技能	0.0	0.03	0.17	0.11	0.07
7.	サービス	0.0	0.0	0.03	0.0	0.02
8.	無職	0.01	0.05	0.0	0.42	0.02
9.	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑥ 自営か給与生活か

老人いこいの家の利用は給与生活者に多い。

表 2-24

仕事の形態	地 区	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1.	自営	0.06	0.05	0.0	0.0	0.02
2.	" (区内)	0.0	0.06	0.0	0.0	0.01
3.	" (市内)	0.0	0.25	0.0	0.0	0.06
4.	" (市外)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5.	給与生活	0.0	0.0	0.06	0.0	0.03
6.	" (区内)	0.0	0.14	0.0	0.0	0.02
7.	" (市内)	0.08	0.04	0.18	0.20	0.12
8.	" (市外)	0.08	0.05	0.0	0.32	0.10

⑦ 年収

老人いこいの家の利用と年収の関係についてみると、年収240万～360万までの中層に多くみられる。地区別にみると、入江では、90～120万、180～240万の人に、多聞台では、480万以上に多い。

表 2-25

地 区 年 収	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1. ~ 90万	0.0	0.07	0.06	0.0	0.05
2. 90~120	0.0	0.0	0.13	0.0	0.03
3. 120~180	0.0	0.05	0.02	0.09	0.03
4. 180~240	0.01	0.06	0.13	0.0	0.06
5. 240~300	0.21	0.18	0.11	0.21	0.18
6. 300~360	0.19	0.05	0.0	0.26	0.13
7. 360~420	0.03	0.13	0.0	0.04	0.03
8. 420~480	0.07	0.0	0.0	0.25	0.06
9. 480万~	0.01	0.19	0.02	0.33	0.06

⑧ 来住時期

老人いこいの家の利用と来住時期の関係についてみると、昭和35年以降の人がいくらか多くなっている。地区別にみると、湊山では戦前と昭和20年代、入江では戦前に多い。

表 2-26

地 区 来住時期	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1. 明治	0.0	0.25	0.10	0.0	0.08
2. 大正	0.04	0.0	0.27	0.0	0.12
3. 昭和 1~19	0.05	0.09	0.0	0.0	0.04
4. 20~29	0.02	0.14	0.03	0.0	0.05
5. 30~34	0.0	0.04	0.0	0.0	0.01
6. 35~39	0.33	0.08	0.0	0.0	0.16
7. 40~44	0.02	0.05	0.01	0.30	0.12
8. 45年~	0.08	0.02	0.12	0.13	0.10

⑨ 家の所有形態

老人いこいの家の利用はあまり差はない。

表 2-27

地 区 家 屋	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1. 持ち家	0.05	0.08	0.09	0.42	0.10
2. 借 屋(民)	0.10	0.08	0.01	0.0	0.05
3. 借 屋(公)	0.0	0.0	0.0	0.11	0.09
4. 社 宅	0.02	0.0	0.0	0.03	0.02
5. その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(4) 集会所

① 家族構成(世代別)

集会所の利用を家族の世代別にみると、三世代家族がやや多い。しかし地区別にみると、魚崎と多聞台では2世代家族の方がよく利用している。

表 2-28

地 区	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1. 単65以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 1 単65以下	1.0	0.0	0.1	0.0	0.31
3. 2 65以上	0.74	0.25	0.16	0.0	0.41
4. 65以下	0.57	0.05	0.40	0.88	0.49
5. 65以上+中以下有	0.5	0.0	0.0	0.0	0.33
6. 2 " + 無	0.91	0.05	0.0	0.75	0.44
7. 2 65以下+ 有	0.81	0.18	0.11	0.80	0.52
8. " + 無	0.71	0.43	0.22	0.20	0.47
9. 65以上+ 有	1.25	0.36	0.10	0.2	0.70
10. 3 " + 無	0.43	0.0	1.36	0.0	0.59
11. 3 65以下+ 有	0.05	1.50	0.42	2.0	0.56
12. " + 無	0.0	0.0	0.0	0.50	0.5
13. その他	0.33	0.0	0.21	0.0	0.19

② 子供または老人の有無

集会所の利用は、子供の有無、老人の有無にはあまりはっきりした関連性はみられない。

表 2-29

年令	世代 子供	一世代	二世代	三世代
65才以上	子供有 " 無	① 0.0 ③ 0.41	⑤ 0.33 ⑥ 0.44	⑨ 0.70 ⑩ 0.59
65才以下	" 有 " 無	② 0.31 ④ 0.49	⑦ 0.52 ⑧ 0.47	⑪ 0.56 ⑫ 0.50

③ 世帯主の年令

集会所の利用と、世帯主の年令の関係をみると35才~44才が最も多く、これについて、55才~64才の家族である。多聞台地区では、25才以下が最も多い。

表 2-30

地 区 年 令	魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
1. ~25才	0.0	0.0	0.0	1.0	0.11
2. 25~34	0.44	0.20	0.06	0.60	0.39
3. 35~44	1.13	0.32	0.13	0.90	0.64
4. 45~54	0.78	0.22	0.24	0.62	0.47
5. 55~64	0.65	0.31	0.50	0.80	0.50
6. 65才~	0.76	0.19	0.29	0.0	0.46

④ 学歴

学歴の高い人の利用が多い。ただし多聞台では、低学歴の人の利用が多く、逆相関となっている。

表 2-31

学 歴	地 区	魚 崎	湊 山	入 江	多 聞 台	全 体
1. 学歴なし		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 小・中学校		0.42	0.29	0.14	1.40	0.36
3. 高校		0.73	0.27	0.28	0.58	0.48
4. 大学		0.94	0.19	0.32	0.56	0.62

⑤ 職業

集会所の利用と職業の関係をみると、「運輸・通信」と「管理」が多い。

地区別にみると、湊山では「販売、保安サービス」、入江と多聞台では「保安サービス」が多い。

表 2-32

職 業	地 区	魚 崎	湊 山	入 江	多 聞 台	全 体
1. 専 門		0.70	0.11	0.34	1.05	0.63
2. 管 理		1.16	0.41	0.32	0.46	0.76
3. 事 務		0.64	0.12	0.04	0.34	0.31
4. 販 売		0.24	0.50	0.31	0.18	0.31
5. 運 輸		0.62	0.22	0.17	1.95	0.76
6. 技 能		0.66	0.14	0.18	0.73	0.41
7. サービス		0.06	0.50	0.41	1.38	0.41
8. 無 職		0.88	0.21	0.05	0.0	0.45
9. そ の 他		6.0	0.0	0.0	0.0	1.50

⑥ 自営か給与生活か

集会所の利用は自営の人にやや多い。

表 2-33

仕事の形態	地 区	魚 崎	湊 山	入 江	多 聞 台	全 体
1. 自営		0.88	0.45	0.55	1.0	0.65
2. “ (区内)		0.91	0.72	0.0	0.0	0.51
3. “ (市内)		0.50	0.30	0.17	1.5	0.44
4. “ (市外)		1.05	0.0	0.0	1.5	0.83
5. 給与生活		0.25	0.0	0.62	0.0	0.42
6. “ (区内)		0.65	0.18	0.08	0.0	0.25
7. “ (市内)		0.69	0.23	0.09	0.72	0.47
8. “ (市外)		0.72	0.09	0.14	0.43	0.51

⑦ 年収 (表 2-34)

集会所の利用と年収の関係をみると、360万～480万の上層にやや多くみられる。

⑧ 来住時期 (表 2-35)

集会所の利用と来住時期についてみると、多聞台をのぞき古い人の利用がやや多い。

表 2-34

年 収	地 区	魚 崎	湊 山	入 江	多 聞 台	全 体
1. ～ 90万		1.0	0.30	0.11	0.0	0.39
2. 90～120		0.92	0.44	0.31	0.0	0.26
3. 120～180		0.80	0.08	0.19	0.41	0.42
4. 180～240		0.24	0.13	0.09	0.40	0.20
5. 240～300		0.68	0.16	0.12	1.11	0.58
6. 300～360		0.84	0.28	0.44	0.05	0.56
7. 360～420		0.93	0.55	0.25	1.12	0.72
8. 420～480		1.27	0.0	0.0	2.02	0.94
9. 480万～		0.79	0.43	0.48	0.22	0.61

表 2-35

来住時期	地 区	魚 崎	湊 山	入 江	多 聞 台	全 体
1. 明治		1.40	2.0	0.0	0.0	0.91
2. 大正		1.0	0.13	0.45	0.0	0.66
3. 昭和 1～19		0.57	0.09	0.36	0.0	0.44
4. 20～29		1.0	0.31	0.36	0.0	0.59
5. 30～34		0.90	0.39	0.30	0.0	0.36
6. 35～39		0.85	0.50	0.14	1.0	0.57
7. 40～44		1.15	0.25	0.11	0.9	0.66
8. 45年～		0.34	0.06	0.07	0.44	0.28

⑨ 家の所有形態

集会所の利用は「公営借屋」の人に最も多く、これについて「持家」の人に多い。

地区別にみると、魚崎、湊山、入江では「持家」の人の利用が多い。

表 2-36

家 屋	地 区	魚 崎	湊 山	入 江	多 聞 台	全 体
1. 持ち家		0.88	0.30	0.32	0.48	0.56
2. 借 屋(民)		0.54	0.20	0.07	0.33	0.26
3. 借 屋(公)		0.61	0.0	0.0	0.82	0.79
4. 社 宅		0.31	0.0	0.12	0.52	0.32
5. その他		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

これまでみてきたように、人口の社会経済的要因は公共施設の利用を規定する要因となっている。また、地区毎および各施設によって利用を高める要因もいくらか異っていることが明らかになった。

これまでみたところから明らかなように、人口特性は公共施設の利用に影響を与えていると思われる。しかし、その影響の仕方は地区別や施設の

要 約

項 目 施 設	公 園	児 童 館	老人いこいの家	集 会 所
1. 世 代 別	○二世世代家族	二世世代家族	○三世世代家族	○三世世代家族
2. 子供・老人の有無	◎子供・老人のいる家族	○子供のいる家族	○老人のいる家族	関係なし
3. 世帯主の年令	○25才～44才	○35才～44才	65才以上	○35才～44才
4. 学 歴	関係なし	中 学 歴	関係なし	高学歴の人
5. 職 業	○事務・運輸	○運輸・単純労務	○運 輸	運輸・管理
6. 自営か給与か	給与生活者	あまり差はない	給与生活者	○自 営
7. 年 収	180万～300万 (中 層)	240万～420万 (中の上層)	240万～360万 (中の上層)	○360万～480万 (上 層)
8. 来 住 時 期	○40年以降	○35年以降の人	戦前と35年以降	○戦前の古い人
9. 家の所有形態	◎公営の借家	○公営の借家	あまり差はない	○公営借家持家
註：最大値と最低値の差	○～1.0以上 ◎～2.0以上	○～0.5以上 ◎～1.0以上	○～0.2以上 ◎～0.5以上	○～0.5以上 ◎～1.0以上

種類に応じて異っている。

ここで取扱った九つの要因のなかで明白な差異を示したものは、①子供の有無、②世代別、③世帯主の年令、④職業、⑤来住時期、⑥家の所有形態の六つである。

〔3〕 公共施設の利用と住民の態度

次に公共施設の利用と住民の態度との関係について検討してみよう。

(1) 公園の利用

④ 公園の利用と地域への関心

公園の利用と地域への関心の関係について全体としてみると、関心の強い人の方が利用率はやや高くなっている。地域への関心をみると、あまり大きな差はみられないのに、地区別の利用率は、多聞台地区が他の地区よりも格段に高く、これについて入江地区、魚崎地区となり、湊山地区は最も低い。

表 3-1

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
関 心 の 強 さ		②1.52	①1.57	④1.49	②1.53	1.51
利 用 率		③1.49	④1.02	②1.52	①2.50	1.59
関心別利用率	1. 関心持つ必要なし	2.0	0.0	0.67	0.0	0.9
	2. 交際	1.33	0.69	1.47	2.76	1.5
	3. 関心を向けるべき	1.43	1.42	2.16	2.21	1.7
	4. 積極的に	1.95	1.0	1.46	2.73	1.7
	5. その他	3.0	0.0	0.0	0.0	1.8

⑤ 公園の利用と施設の要求の仕方

施設の要求の仕方と公園の利用についてみると、強い要求をもつ人は公園をよく利用しているといえよう。施設の要求度を地区別にみると、あまり大きな差はないが、多聞台がやや強く、入江がやや弱い。

表 3-2

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
施 設 要 求 度		②1.38	③1.34	④1.31	①1.4	1.37
利 用 度		③1.49	②1.02	③1.52	①2.50	1.59
要求別の利用率	1. 要求しなくてよい	0.97	0.88	0.36	3.25	0.9
	2. 要求はほどほどに	1.24	0.81	1.39	1.61	1.3
	3. 要求すべきだ	1.66	0.96	1.70	2.77	1.7
	4. わからない	1.38	1.59	1.82	2.63	1.8

⑥ 公園の利用と近隣づきあい

公園の利用と近隣づきあいの関係をみると、つ

表 3-3

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
近 隣 づ き あ い		④1.75	②1.94	③1.84	①2.05	1.86
公 園 利 用 率		③1.49	④1.02	③1.52	①2.50	1.59
つきあい別利用率	1. つきあいなし	1.0	0.0	0.18	0.0	0.43
	2. 朝夕のあいさつのみ	0.85	0.93	1.32	1.87	1.13
	3. 訪問し合う	1.84	1.02	1.65	2.12	1.59
	4. 留守・買物をたのむ	2.34	1.43	2.19	3.33	2.39
	5. 一緒に楽しむ	1.72	0.38	1.45	4.50	1.60

きあいの深い人が、公園の利用率も高いことが、明らかである。地区別にみると、湊山地区では近隣づきあいは2位である。

④ 公園の利用率と地域問題の解決法

公園の利用率と地域問題の解決法の関係をもみると、全体ではあまり大きな差はみられない。

表 3-4

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
利 用 率		1.49	1.02	1.52	2.50	1.59
相談役別利用率	1. 県会・市会議員	2.33	0.77	1.44	6.0	1.5
	2. 地元の世話役	1.57	0.96	1.59	2.7	1.7
	3. グループ	1.30	0.92	1.89	2.34	1.6
	4. 直接	1.32	1.42	1.67	1.31	1.4
	5. その他	2.14	1.46	1.35	0.5	1.5

⑤ 公園の利用とわが町意識

公園の利用度はわが町意識と逆相関を示している。しかし「わからない」と答えた人の利用率が一番高い。

表 3-5

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
利 用 率		1.49	1.02	1.52	2.50	1.59
意識別利用率	1. そう思う	1.39	1.1	1.36	2.43	1.5
	2. 特別な気持ちなし	1.73	0.67	1.94	2.23	1.7
	3. わからない	1.39	1.43	2.33	4.5	2.2

(2) 児童館の利用

① 児童館の利用と地域への関心

児童館の利用と地域への関心の関係は、関心の強い人が利用もごくわずか多くなっている。児童

表 3-6

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
関 心 の 強 さ		③ 1.52	① 1.57	④ 1.49	② 1.53	1.52
地 区 別 利 用 率		③ 0.33	② 0.41	④ 0.03	① 0.63	0.30
関心別利用率	1. 関心を持つ必要なし	0.08	0.75		0.0	0.17
	2. 交際した方がよい	0.27	0.43		0.65	0.28
	3. 関心を向けるべき	0.42	0.59		0.42	0.37
	4. 積極的に	0.44	0.04		1.35	0.32
	5. その他	0.0	0.0		0.0	0.0

館の利用を地区別にみると、多聞台が最も高く、湊山がこれにつぎ、魚崎は三位である。また、関心の強さは四地区とも大きな違いはない。

② 児童館の利用と施設要求の仕方

児童館の利用と施設の要求の仕方の関係をもみると、要求しなくてもよい人が利用は少なく、要求すべきだという人は利用率が高い。

表 3-7

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
施 設 要 求		② 1.38	③ 1.34	④ 1.31	① 1.4	1.37
利 用 率		③ 0.33	② 0.41	④ 0.03	① 0.63	0.30
要求別の利用率	1. 要求しなくてよい	0.28	0.0		0.50	0.15
	2. ほどほどに	0.23	0.22		0.70	0.26
	3. 要求すべきだ	0.41	0.44		0.51	0.32
	4. わからない	0.17	0.6		0.98	0.34

③ 児童館の利用と近隣づきあい

児童館の利用と近隣づき合いの関係をみると、近隣づき合いが深いほど利用率が高いことが明らかに示されている。

表 3-8

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
近 隣 づ き あ い		④ 1.75	② 1.94	③ 1.84	① 2.05	1.88
児 童 館 利 用 率		③ 0.33	② 0.41	④ 0.03	① 0.63	0.30
つきあい別利用率	1. つき合いなし	0.0	0.0		0.0	0.0
	2. 朝夕のあいさつ	0.15	0.24		0.44	0.17
	3. 互いに訪問	0.37	0.38		0.82	0.32
	4. 留守・買物	0.56	0.67		0.70	0.51
	5. 一緒に楽しむ	1.06	0.63		0.25	0.53

④ 児童館の利用と地域の問題解決の仕方

表 3-9

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
利 用 率		0.33	0.41	0.03	0.63	0.30
相談役別利用率	1. 県会・市会議員	0.11	0.0		0.5	0.04
	2. 地元の世話役	0.48	0.38		0.87	0.38
	3. グループ	0.33	1.0		0.05	0.28
	4. 直接	0.18	0.28		0.25	0.19
	5. その他	0.0	0.71		0.0	0.27

児童館の利用と問題解決の方法についてみると、「地元の世話役」と「グループ」による人の利用が高くなっている。

㉔ 児童館の利用とわが町意識

児童館の利用とわが町意識との関係を見ると、わが町意識の強い方が利用率は高い。

表 3-10

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
利 用 率		0.33	0.41	0.03	0.63	0.30
意識別利用率	1. そう思う	0.38	0.40		0.60	0.32
	2. 特別な気持ちなし	0.25	0.35		0.65	0.26
	3. わからない	0.16	0.86		0.93	0.35

(3) 老人いこいの家の利用

「老人いこいの家」についても、①地域への関心、②施設の要求の仕方、③近隣づきあい、④地域問題の解決法、⑤わが町意識、について利用率を計算したが、同居数が少なく有意と思われる結果が得られなかったので、個々の計算結果は省略した。ただ、最後の要約に相関係数だけ示した。

(4) 集会所の利用と住民の態度

最後に集会所の利用と住民の態度についてみてみよう。

㉕ 集会所の利用と地域への関心

集会所の利用率と地域への関心の強さとの関係についてみると、関心の強い方が利用率も高くなっている。地区別には、魚崎地区と多聞台地区の利用率が高く、湊山地区と入江地区では非常に低い。

表 3-11

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
関 心 の 強 さ		③1.52	①1.57	④1.49	②1.53	1.51
地区の利用率		①0.75	③0.26	④0.23	②0.67	0.50
関心別の利用率	1. 関心を持つ必要なし	1.21	0.70	0.0	0.0	0.52
	2. 交際した方がよい	0.50	0.21	0.13	0.40	0.33
	3. 関心を向けるべきだ	0.99	0.26	0.13	0.92	0.65
	4. 積極的にとりくむべきだ	1.27	0.35	0.81	1.31	0.91
	5. その他	0.17	0.0	0.0	0.0	0.10

㉖ 集会所の利用と施設の要求の仕方

集会所の利用と施設の要求の仕方の間には、全

体としてはあまり明確な関係はみられない。地区別にみると、多聞台地区では要求度の強い人に高い利用がみられるが、魚崎地区ではむしろ、要求度の低い人の利用率が高くなっている。

表 3-12

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
施 設 要 求		②1.38	③1.34	④1.31	①1.4	1.37
利 用 率		①0.75	③0.26	④0.23	②0.67	0.50
要求別の利用率	1. 要求しなくてよい	0.89	0.67	0.11	0.50	0.56
	2. 要求はほどほどに	0.95	0.09	0.18	0.54	0.47
	3. 要求すべきだ	0.09	0.29	0.27	0.67	0.54
	4. わからない	0.38	0.21	0.20	0.80	0.38

㉗ 集会所の利用と近隣づきあい

集会所の利用と近隣づきあいの関係を見ると、近隣づきあいの深い人が集会所の利用も高くなっている。これは各地区（湊山をのぞく）ともほぼ同様な傾向を示している。

表 3-13

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
近 隣 づ き あ い		③1.75	②1.94	④1.84	①2.05	1.89
集会所の利用率		①0.75	③0.26	④0.23	②0.67	0.50
つきあい別の利用率	1. つき合いなし	0.60	0.0	0.0	0.0	0.20
	2. あいさつだけ	0.52	0.16	0.23	0.38	0.37
	3. 訪問し合う	0.91	0.33	0.26	0.43	0.53
	4. 留守・買物	0.96	0.26	0.24	1.00	0.48
	5. 一緒に楽しむ	1.16	0.21	0.05	2.50	0.80

㉘ 集会所の利用と問題解決の方法

全体としてみると、市役所と直接交渉する人の利用が最も高く、これについて地元の世話役にた

表 3-14

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
利 用 率		0.75	0.26	0.23	0.67	0.50
相談相手別の利用率	1. 県会・市会議員	0.61	0.38	0.0	0.0	0.26
	2. 地元の世話役	0.84	0.22	0.23	0.79	0.49
	3. グループ	0.57	0.29	0.14	0.32	0.38
	4. 直 接	0.75	0.58	0.73	0.88	0.73
	5. その他	0.86	0.23	0.0	0.0	0.27

のむ人である。魚崎地区では地元の世話役にたのむ人の利用が最も多い。

㊦ 集会所の利用とわが町意識

表 3-14

地区		魚崎	湊山	入江	多聞台	全体
利 用 率		0.75	0.26	0.23	0.67	0.50
意識別利用率	1. そう思う	0.72	0.26	0.29	0.87	0.59
	2. 特別な気持ちなし	0.58	0.22	0.10	0.29	0.34
	3. わからない	0.26	0.07	0.07	0.19	0.16

集会所の利用は「わが町と思う」人の方が「特別な 気持ちのない」人よりも 高い。殊に 多聞台で「そう思う」人の利用率が高い。

これまでみてきたように、住民の態度では「近隣づきあい」および「地域への関心」と公共施設の利用との間には相関がみられるが、他はあまりはっきりした関連がみられない。また施設と利用率の関係は、それぞれの施設で異っている。

したがって「態度」は「人口特性」に比較すると、公共施設の利用率との関連性は弱いといえよう。

要 約

施 設	公 園	児 童 館	(老人いこいの家)	集 会 所
項 目				
1. 地域への関心	相 関 ($r = 0.88$)	相 関 ($r = 0.81$)	($r = -0.94$)	相 関 ($r = 0.78$)
2. 施設の要求の仕方	相 関 ($r = 0.59$)	相 関 ($r = 0.65$)	相 関 ($r = 0.76$)	あまり関係なし ($r = 0.04$)
3. 近隣づきあい	相 関 ($r = 0.79$)	相 関 ($r = 0.98$)	あまり関係なし ($r = 0.24$)	相 関 ($r = 0.93$)
4. 地域問題の解決法	逆 相 関 ($r = -0.39$)	($r = 0.31$)	あまり差異はない ($r = 0.12$)	相 関 ($r = 0.83$)
5. わが町意識	関係なし ($r = 0.27$)	相 関 ($r = 0.65$)	弱 い 逆 相 関 ($r = -0.32$)	相 関 ($r = 0.57$)

〔 4 〕 公共施設の利用とコミュニティの 特性

コミュニティの組織化の程度や構造の特質という観点からみると、四つの地区はそれぞれ少しづつ違った性格をもっている。次に施設の利用とコミュニティの社会的特性との関連について検討してみよう。

(1) 魚崎地区

1) 魚崎地区の社会構造

魚崎地区の 社会構造の 特質としては まず 第一に、自治会（および若干の防犯分会）が組織されているが、その加入率は四つの地区では最も低い。

第二に、しかし自治会、婦人会など地区内の各種団体を網羅した「町協議会」が組織され、この協議会をもとに、いくつかの住民運動（たとえば下水処理工場設置反対運動、関西電力火力発電設置反対など）を展開した実績をもっている。

第三に、旧魚崎町は昭和25年に神戸市に合併し

たが、その後も旧町単位のもとまりが残されており、少なくとも地区の指導者は旧魚崎町としての誇りとまとまりをもっている。

第四に、これをうらずけるものとして、旧町有財産によってつくられた財産区が存在している。この財産区は全国でも珍らしく、公職選挙法にもとづいて選ばれた財産区議員によって管理運営されている。この財産区が、集会所（魚崎会館、横屋会館、西町会館）や老人いこいの家などの施設を建設し管理費を支出するとともに、地区内の福祉施設や教育機関に助成をおこなっている。

第五に、清掃工場の設置の見返りとして、東灘文化センターと児童館などが昨年(昭和51年4月)開設されたため、財産区が建設した三つの集会所や老人いこいの家などとあいって、きわめて施設に恵まれている。

第六に、しかしながら、魚崎地区は人口急増の郊外住宅地であるから、このような組織化や統一性は、地区の全域にすみずみまで徹底しているわ

けではなく、町協議会もリーダー達の組織である。したがって対外的には強力でまとまっているようにみえても、下部では地域の問題や自治活動に無関心な人も多い。すなわち、地元意識の強い組織のリーダー達と一般住民との間に二重構造があるといえよう。

以上、いずれにしても魚崎地区は伝統的な文化遺産を基礎に、地区としてのまとまりをもち、組織されている。

2) 公共施設の利用と組織との関係

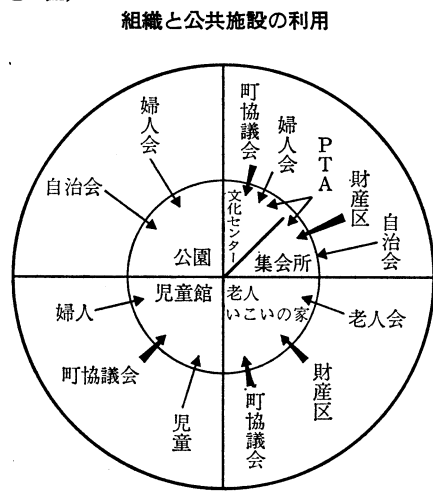
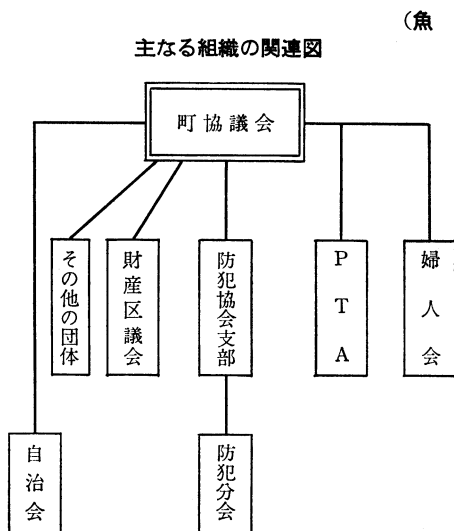
「公園」は附近の自治会または、有志によって

公園管理会が組織され管理にあたっている。

「児童館」は、附近の児童がよく利用している。

「老人いこいの家」は魚崎財産区によって建設されており「つるかめ会」が、実際の運営に当たっている。

「集会所」は財産区によって建設されたものであり、運営費も財産区から出されている。地域の自治組織は無料で利用出来るので活発に利用されている。



(2) 多聞台地区

1) 多聞台地区の社会構造

第一に、多聞台の集合住宅地区には棟毎に自治会が結成され活発に活動している。

第二に、これらの自治会を基礎に、連合自治会が組織されており、地区全域にわたる問題の処理に当たっている。

第三に、さらに多聞台地区においては、地区の主要な団体を網羅した協議会も「学校施設開放運営委員会」のように結成されやすい。この委員会にはスポーツ団体などのような地域にしばられない組織も加入している。これが多聞台地区の特質である。

第四に、市の集会所の利用状況から明らかなように、趣味的、サークル的な活動がやり易い社会

的な環境にある。

第五に、一戸建住宅地の場合には、社会的活動は集合住宅地にくらべるとやや不活発である。

以上、多聞台地区は近代的な仕方では組織され、社会的交流も活発であるといえよう。

2) 公共施設の利用と組織との関係

まず「公園」は一般によく利用されており特に組織との関係はない。

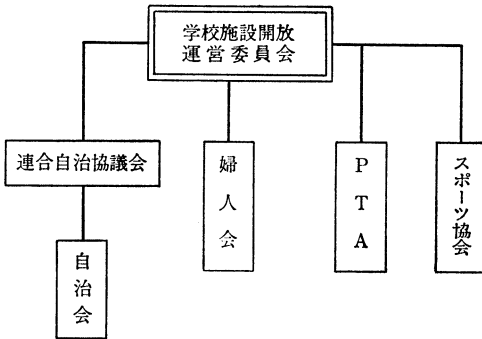
「児童館」については、婦人会と PTA が集会所等に利用している。

「老人いこいの家」は婦人会や連合自治協議会も利用している。

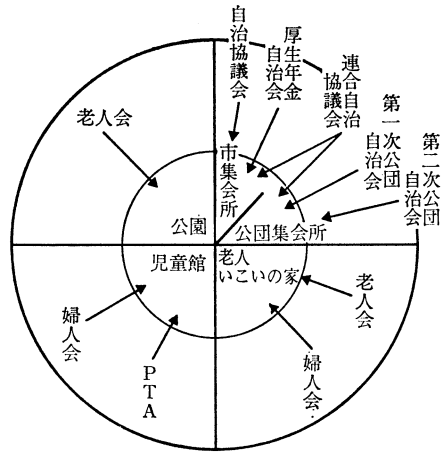
「集会所」のうち「市の集会所」は自治会と連合自治協議会が利用し、「公団集会所」は公団自治会のはか、連合自治協議会でも利用している。

(多 聞 台 地 区)

主なる組織の関連図



組織と公共施設の利用



(3) 湊山地区

1) 湊山地区の社会構造

まず第一に、自治会と婦人会の加入率は魚崎よりも高いが、会の活動はあまり活発ではなく自治会の組織のない地区がみられる。

第二に、一部には「笑栄会」のように商店主が会を組織し、商店会の活動だけにとどまらず、自治会的な活動もおこなっている。

第三に、地区の自治会は、それぞれ、バラバラのまま、協議体も存在していない。また、自治会以外の団体との交流もみられない。したがって

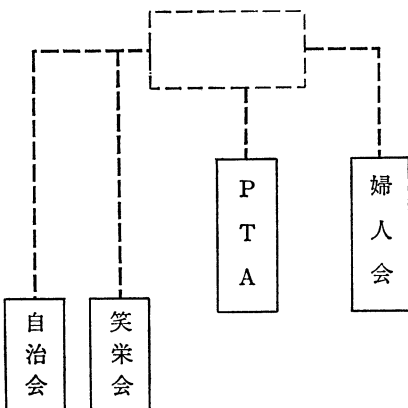
湊山地区としてのまとまりは形成されていない。

第四に、しかし個々の住民は、古い伝統をもつ町にたいする愛着をもっている。それは「自分の町」と答えた人の割合は73%で最高であることから知られる。また近隣づきあいの程度も多聞台について深い。

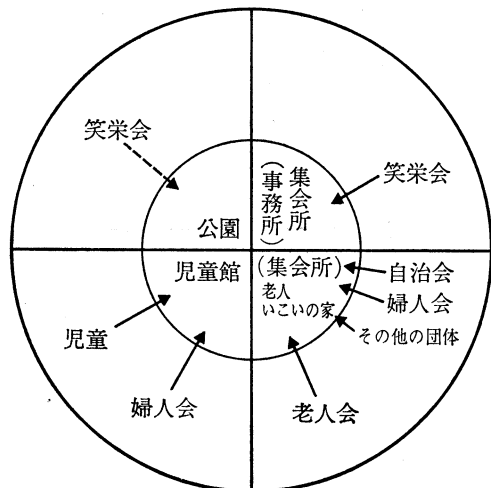
以上、湊山地区は加入率においては魚崎地区より高く、地域への関心も強いにもかかわらず、これがうまく組織化されていない。したがって、魚崎地区や多聞台地区に比較すると、組織化の程度が低いといえよう。

(湊 山 地 区)

主なる組織の関連図



組織と公共施設の利用



2) 公共施設の利用と組織との関係

「公園」については公園管理会がつくられておらず、わずかに「笑栄会」がときおり公園の清掃にあたっている程度である。夏には笑栄会主催で盆おどりをやっている。

「児童館」については、婦人会も利用している。

「老人いこいの家」は民間の施設であるが、湊山地区にかぎらず、附近の老人が利用している。

「集会所」はこの地区にないため、「老人いこいの家」を集会所として地域の住民組織がよく利用している。

(4) 入江地区

1) 入江地区の社会構造

入江地区の社会的性格としては、第一に、自治会はほとんど全域にわたって組織されており、なかには強固に組織され、活発に活動しているものもある。また自治会が財産区協議会と協力して、伝統文化の保存につとめている例もある。

第二に、しかしながら、個々の自治会は相互に交流したり、協力したりすることはあまりなく、地区全体にわたる協議会のようなものは組織されていない。協議会的なものに参加したり、他の組

織と交流する契機は地区の環境問題に対処する必要が生じた場合である。

第三に、地区内にドヤ街があるため、浮浪者が多く、地区の風紀を乱すことがあり、これが地区の問題となっている。殊に公園の一角を浮浪者が占拠することがあり、婦女子がこわがって公園に寄りつかなくなることがある。

以上、入江地区は狭い範囲で自治会などの組織は全域に存在しているにもかかわらず、地区全体の組織化がなされてなく、問題の領域をかかえている。

2) 公共施設の利用と組織との関係

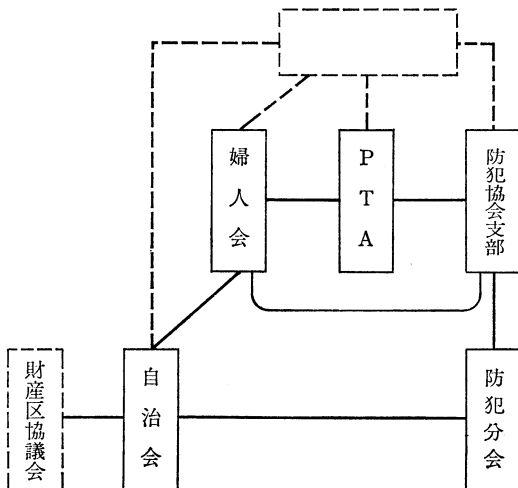
「公園」は、本町公園はじめ、ほとんどの公園に、附近の自治会や婦人会によって公園管理会が組織されている。また本町公園では、自治会主催の運動会をやっている。

「老人いこいの家」も自治会等で管理会をつくって運営している。

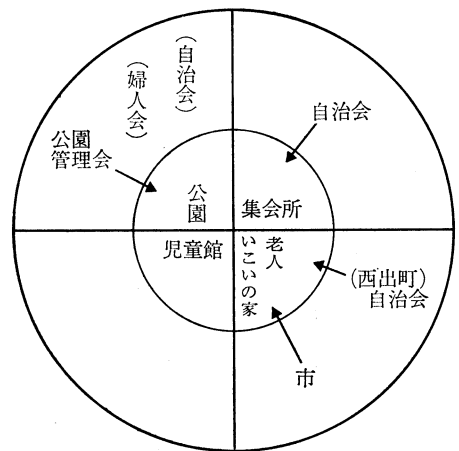
「集会所」はすべて各自治会が建設したもので、地域の人々の会合に利用している。西出町ではアパートの居住者の葬式に使用し、神明会館では地区の人の趣味の会などに自由に使用させている。

(入 江 地 区)

主なる組織の関連図



組織と公共施設の利用



四つの地区の社会構造を順次、検討して来たが、これを総合的にみると、①「多聞台」は適切に配置された施設を住民組織としてもよく利用している。②「魚崎」は恵まれた施設を個人のレベルで

も住民組織としてもよく利用している。③湊山は公園や集会所などの整備がおくれ、組織的にも不活発であるから施設の利用は少ない。④入江地区は児童館や集会所の整備がおくれ、地区全体の住

民組織もないため施設の利用は少ない。

われる。

〔5〕 公共施設利用の規定要因は何か

—三つの調査の総合と仮説の再検討—

最後に三つの調査を総合的に把握することによって公共施設利用の規定要因について考えてみよう。

まず多聞台地区は、「人口要因」、「態度」、「組織化の程度」のすべてにおいて利用率を高める要因を備えているところから、利用率も最高であることは、当然の結果であるといえよう。これに加えて、計画された団地であるところから、「施設の整備度」も高く、利用率をいやが上にも高めているといえよう。

次に「魚崎地区」については、「人口要因」、「態度」においては3位か4位であるのに対して、利用率は2位であることは、他の要因がかなり利用率を高めていることを示している。それは「歴史的条件」によって「施設が整備」されていることと、地区全域にわたる「組織化」が比較的すすんでいるからである。特に「集会所」に恵まれているのは「魚崎」の特徴である。

第3に「湊山地区」においては、「人口要因」は1～2位の高さにあり、また「態度」の要因もこれに近い水準であるにもかかわらず、公園と集会所の利用度が低いのは、「施設の整備度」と「組織化の程度」が低いことに影響されているからである。この地域では、施設の整備のおくれが最大の問題であるといえよう。

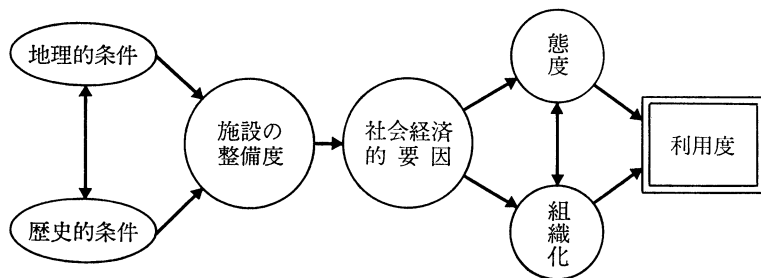
第4に「入江地区」は、「人口要因」も低い、それ以上に、施設の利用度を最低におし下げているのは、組織化の程度が低く、「態度要因」も下位にあるからであろう。入江地区の場合には、「施設の整備」がはかっていることの他に、ドヤ街が存在していることにも影響を受けているものと思

		魚崎	湊山	入江	多聞台
社会・経済的要因	老人の割合	㊥28.7	㊥29.3	㊥23.5	㊥43.8
	子供の割合	㊥44.0	㊥44.7	㊥43.0	㊥66.9
	年令(25～44)	㊥38.0	㊥38.0	㊥34.7	㊥66.9
	年収(120～300)	㊥36.7	㊥45.7	㊥50.9	㊥56.1
	家屋の所有(借家)	㊥3.0	0	0	㊥53.1
態度	関心の強さ	㊥1.52	㊥1.57	㊥1.49	㊥1.53
	施設要求の仕方	㊥1.38	㊥1.34	㊥1.31	㊥1.40
	近隣づきあい	㊥1.75	㊥1.94	㊥1.84	㊥2.05

		魚崎	湊山	入江	多聞台
組織化の程度		2位	3位	4位	1位
利 用 率	公園の利用率	③1.49	④1.02	②1.52	①2.5
	児童館の利用率	③0.33	②0.41	④0.03	①0.63
	老人いこいの 家の利用率	③0.06	②0.08	④0.05	①0.21
	集会所の利用率	①0.75	③0.26	④0.23	②0.67

組織の加入率 (個人別)	④66.7	③80.0	①91.7	②83.8
自治会の加入率	④60.0	③68.4	③68.2	①85.4
婦人会の加入率	③30.5	②55.9	①58.3	④26.7
P T A の加入率	②47.5	③41.8	④39.3	①49.6
合 計	(138.0)	(166.1)	(165.8)	(161.7)

したがって、最初に示した作業仮説は調査の実施と結果の分析の過程で若干修正されることとなった。すなわち新しく加わったものとして「地理的条件」、「歴史的條件」、「施設整備度」があげられる。利用度はこのような要因の複合的な結果として現われる。



む す び

この調査で明らかにされたことは、まず第一に、各地区毎に公共施設の整備の度合が大きく異っていること。そして施設の整備については、市の行政サービスだけで決まるのではなく、地域の歴史的條件に支配されている。ここでは、魚崎地区における「財産区」の役割を発見した。

第二に、仮説にあげたように人口の特性によって、公共施設の 利用が 規定されることが判明した。その中でも、①子供の有無、②家の所有形態など、いくつかの変数は特に影響が大きいことが

わかった。ただその影響の程度は「地区」によりまた「施設」によって異っている。

第三に、「態度」変数もまた公共施設の利用に影響することが明らかなったが、その程度は必ずしも強くない。

第四に、地区の組織化、すなわちコミュニティの構造の特質は多聞台と魚崎にみられるように、公共施設の利用に大きく影響している。

第五に、これらの変数は、単純に働くというよりも相互に関連しながら機能し、公共施設の利用という最終的な結果を生み出している。

付記： この調査は、神戸市企画局総合調査課の支援によってなされたものである。共同研究者として宮西悠司さんが調査研究に参加し、また奥田憲昭君と大滝博明君に協力してもらった。記して感謝の意を表したい。